

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名 ≪音楽(器楽合奏)≫

※詳細については、資料Ⅱ(器楽合奏-3～器楽合奏-6)を参照。

発行者の略称	教出	書名	中学器楽 音楽のおくりもの
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連			<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、手元や口元の写真や複数の角度から撮影された写真が『姿勢とかまえ方』に掲載されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、見開きごとに学んだことを表現する学習活動が【まとめの曲】に設定されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、演奏家の音楽や楽器に対するメッセージが『表現を求めて』に掲載されている。</p>
2 かながわ教育ビジョンとの関連			<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「人権教育」について、SDGsと関連する人や国の不平等をなくす内容が『発展「吹く楽器の仲間たち」』に掲載されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「コミュニケーション能力」について、全体の響きを感じ取りながら表現する合奏曲が『シチリアーナ』に掲載されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、地域の祭りで太鼓を演奏する取組が『音楽のチカラで人と社会を未来へつなぐ』に掲載されている。</p>
3 内容と構成			<p>≪教科・種目共通の観点≫</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、新しい運指や練習曲、まとめ・ふりかえりの学習活動が【曲想と音楽の構造との関わりを理解したり、他のパートと合わせて演奏する技能を身につけたりしながら、表現を工夫しよう】に設定されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、楽器の背景にある文化や伝統、楽器と形との関係を調べたり考えたりする学習活動が【弾く楽器の仲間たち】に設定されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、共通点や相違点を考え意見を交流する学習活動が【表現の仕方を調べてみようPART-2】に設定されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、篠笛、尺八、箏、三味線、太鼓の5種類の和楽器の楽曲が【基本的な奏法を身につけたりしながら表現しよう】に掲載されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、打楽器と唱歌によるお囃子を創作する学習活動が【楽器と唱歌によるパッチワーク】に設定されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階の円滑な接続について、ソプラノリコーダーとアルトリコーダーの運指や音高、音色を確認する学習活動が【しりとりに歌】に設定されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、音源や演奏する場面の写真を活用して、楽器の発音の仕組みや音色の特徴を比較する学習活動が【表現の仕方を調べてみようPART-1】に設定されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さへの対応について、写真を用いたギターとキーボードのコード表の『ギター&キーボードコード表』に掲載されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 生徒の理解が深まる構成について、1人1台端末を活用できる学習活動が【見る】に示され、動画などにつながる二次元コードが掲載されている。</p> <p>≪各教科・種目別の観点≫(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 主体的・協働的な学習について、音楽を形づくっている要素を取り上げ、話し合いを通じて構成を考えて合奏する学習活動が【どこかの街で不思議な旋律PART-1】に設定されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 系統的・発展的な配列について、楽器ごとに前半には基礎的な技能の習得が『たこたこあがれ』に掲載され、後半には応用的な曲や既習の楽器を組み合わせた楽曲が『子守歌』に掲載されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 音楽文化の理解について、文化や生活様式との関わりを考える学習活動が【弾く楽器の仲間たち】に設定されている。</p>
4 分量・装丁表記等			<p>⑲ <input type="checkbox"/> 本編は、リコーダー、篠笛、尺八、ギター、箏、三味線、太鼓の順に各楽器が配置され、後半には各楽器の重奏曲、箏の縦譜、ギターのTAB譜、コード表、創作課題が掲載されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はAB変型判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『見やすさ・読みやすさに配慮したユニバーサルデザインフォントを使用しています。』『色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮しています。』と表記されている。</p>

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《音楽(器楽合奏)》

※詳細については、資料Ⅱ(器楽合奏-3～器楽合奏-6)を参照。

発行者の略称	教芸	書名	中学生の器楽
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、奏法の写真や奏法を確認する図が『姿勢と構え方』に掲載されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、曲想を感じ取り、音にふさわしい奏法で表現する学習活動が【アンサンブルセミナー】に設定されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、演奏家から音楽や楽器に対するメッセージが『さっきのドラムソロやったの、誰だ?』に掲載されている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「共生」について、音楽に取り組み、共演する様子の写真が『伝統の枠を超えて活躍する和楽器』に掲載されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「コミュニケーション能力」について、音楽を通じたコミュニケーションとして合奏する楽譜が『小さな恋のうた』に掲載されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、生活や社会の中の音や音楽と自分たちとのつながりが『楽しもう! 和楽器の音楽』に掲載されている。</p>		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、曲の特徴を捉えて意見交流する学習活動が【曲の構成を捉えよう】に設定されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、楽器の歴史や成り立ち、楽器の背景にある文化や伝統を理解する学習活動が【楽器を知ろう】に設定されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、音楽表現の違いや楽曲の構成に関して意見を交流する学習活動が【曲の構成を捉えよう】に設定されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、箏、三味線、太鼓、篠笛、尺八の5種類の和楽器の楽曲が『吹いてみよう』や『弾いてみよう』に掲載されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、三味線と唱歌や大鼓・小鼓のパート、掛け声を演奏する学習活動が【「寄せの合方」によるリズムアンサンブル】に設定されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階の円滑な接続について、運指や音高、音色を確認する学習活動が【喜びの歌】に設定されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、創作ツールを活用して箏の旋律をつくる学習活動が【My Melody】に設定されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さへの対応について、イラストを用いた『ギター/キーボード表』に掲載されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 生徒の理解が深まる構成について、1人1台端末を活用できる学習活動が【動画】に示され、動画などにつながる二次元コードが掲載されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 主体的・協働的な学習について、音楽を形づくっている要素を取り上げ、話し合いを通して表現を考えて演奏する学習活動が【アーティキュレーションを工夫しよう】に設定されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 系統的・発展的な配列について、楽器ごとに前半には基礎的な技能の習得が『カントリー ロード』に掲載され、後半には応用的な曲や既習の楽器を組み合わせさせた楽曲が『大きな古時計』に掲載されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 音楽文化の理解について、和楽器や郷土の芸能を考える学習活動が【私たちが受け継ぐ郷土の祭りや芸能】に設定されている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ <input type="checkbox"/> 本編は、リコーダー、ギター、箏、三味線、太鼓、篠笛、尺八、打楽器の順に各楽器が配置され、後半には各楽器の重奏曲、箏の縦譜、三味線の文化譜、楽器の図鑑、創作課題が掲載されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はAB変型判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『全ての生徒の色覚特性に適應することを目指してデザインしています。』『特別支援教育の視点から、学習上重要な情報を確実に読み取れるようにしています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。</p>		

【資料Ⅱ】

教科種目名《音楽(器楽合奏)》

1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連

① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮	
教出	「知識・技能」の習得について、手元や口元の写真や複数の角度から撮影された写真が『姿勢とかまえ方』に、息の流れの図示を用いた奏法に関する解説が『リコーダー』『篠笛』『尺八』に掲載されている。
教芸	「知識・技能」の習得について、奏法の写真や奏法を確認する図が『姿勢と構え方』に、姿勢や呼吸についての図や解説が『「美しい音」は「よい姿勢から』』や『音の響かせ方』に掲載されている。
② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮	
教出	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、見聞きごとに学んだことを表現する学習活動が【まとめの曲】に設定され、主旋律の表れ方を確認し、曲想を味わいながら表現する学習活動が【風笛】に設定されている。
教芸	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、曲想を感じ取り、音にふさわしい奏法で表現する学習活動が【アンサンブルセミナー】に設定され、曲ごとの学習活動が【吹いてみよう】に設定されている。
③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	
教出	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、演奏家から音楽や楽器に対するメッセージが『表現を求めて』に、楽器の演奏についての専門家からのアドバイスが『楽器との一体感』に掲載されている。
教芸	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、演奏家から音楽や楽器に対するメッセージが『さっきのドラムソロやったの、誰だ?』に、演奏家や音楽・文芸批評家による学習者へのメッセージが『音楽って何だろう?』に掲載されている。

2 かながわ教育ビジョンとの関連

④ [思いやる力]他者を尊重し、多様性を認め合う、思いやる力を育てる。 (共生、豊かな心、いのちの大切さ、生命の尊厳、人権教育、道徳教育 など)	
教出	[思いやる力]の「人権教育」について、SDGsと関連する人や国の不平等をなくす内容が『発展「吹く楽器の仲間たち」』に、「共生」について、音楽を通じて人と人とのつながりを生み出す取組が『ストリート・ピアノ』に掲載されている。
教芸	[思いやる力]の「共生」について、音楽に取り組み、共演する様子の写真が『伝統の枠を超えて活躍する和楽器』に、社会における音楽の役割や関わりが『じぶんの、そして、ひとのもの』に掲載されている。
⑤ [たくましく生きる力]自立した一人の人間として、社会をたくましく生き抜くことのできる力を育てる。 (公共心、規範意識、責任感、国際化、情報化、食育、健康教育、コミュニケーション能力、消費者教育 など)	
教出	[たくましく生きる力]の「コミュニケーション能力」について、全体の響きを感じ取りながら表現する合奏曲が『シチリアーナ』に掲載され、世界の楽器や、楽器の音色や響きを生かした音楽文化に関する内容が『LET'S PLAY MUSIC!』に掲載されている。
教芸	[たくましく生きる力]の「コミュニケーション能力」について、音楽を通じたコミュニケーションとして合奏する楽譜が『小さな恋のうた』に掲載され、音楽を通じたコミュニケーションの考え方が、巻頭の『じぶんの、そして、ひとのもの』に掲載されている。
⑥ [社会とかかわる力]社会とかかわりの中で、自己を成長させ、社会に貢献する力を育てる。 (生きること、働くことの大切さ、自然や人とのふれあい体験、地域貢献活動、ボランティア活動、環境教育、シチズンシップ教育 など)	
教出	[社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、地域の祭りで太鼓を演奏する取組が『音楽のチカラで人と社会を未来へつなぐ』に掲載されている。
教芸	[社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、生活や社会の中の音や音楽と自分たちとのつながりが『楽しもう!和楽器の音楽』に掲載されている。

3 内容と構成

- 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。

⑦ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮	
教出	主体的・対話的で深い学びについて、新しい運指や練習曲、まとめ・ふりかえりの学習活動が【曲想と音楽の構造との関わりを理解したり、他のパートと合わせて演奏する技能を身につけたりしながら、表現を工夫しよう】に設定され、楽器の特徴を踏まえて考えたことを話し合う学習活動が【表現の仕方を調べてみよう PART-1】に設定されている。
教芸	主体的・対話的で深い学びについて、曲の特徴を捉えて意見交流する学習活動が【曲の構成を捉えよう】に設定され、学習のねらいや教材の関連性を表記した内容が『「中学生の器楽」の学習内容』に掲載されている。
⑧ 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮	
(教科等横断的に学習を展開する上での工夫や配慮、中学校3年間や義務教育学校9年間の学びのつながりや系統性、基礎的な学習と発展的な学習との明確な区分けなど、生徒が学習を進めたり教員が指導計画を立てたりしやすいような工夫や配慮など)	
教出	カリキュラム・マネジメントについて、楽器の背景にある文化や伝統、楽器と形との関係を調べたり考えたりする学習活動が【弾く楽器の仲間たち】に設定されている。
教芸	カリキュラム・マネジメントについて、楽器の歴史や成り立ち、楽器の背景にある文化や伝統を理解する学習活動が【楽器を知ろう】に設定されている。

- 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。

⑨ 言語能力の確実な育成	
教出	言語能力の育成について、共通点や相違点を考え意見を交流する学習活動が【表現の仕方を調べてみようPART-2】に設定されている。
教芸	言語能力の育成について、音楽表現の違いや楽曲の構成に関して意見を交流する学習活動が【曲の構成を捉えよう】に設定されている。
⑩ 伝統や文化に関する教育の充実	
教出	伝統や文化に関する教育の充実について、篠笛、尺八、箏、三味線、太鼓の5種類の和楽器の楽曲が『基本的な奏法を身につけたりしながら表現しよう』に掲載されている。
教芸	伝統や文化に関する教育の充実について、箏、三味線、太鼓、篠笛、尺八の5種類の和楽器の楽曲が『吹いてみよう』や『弾いてみよう』に掲載されている。
⑪ 体験活動の充実	
教出	体験活動の充実について、打楽器と唱歌によるお囃子を創作する学習活動が【楽器と唱歌によるパッチワーク】に、構成を考えたり、旋律を創作したりして合奏する学習活動が【音のスケッチ】に設定されている。
教芸	体験活動の充実について、三味線と唱歌や太鼓・小鼓のパート、掛け声を演奏する学習活動が【寄せの合方】によるリズムアンサンブルに、口三味線を歌う学習活動が【こきりこ】に設定されている。
⑫ 学校段階間の円滑な接続	
教出	学校段階の円滑な接続について、ソプラノリコーダーとアルトリコーダーの運指や音高、音色を確認する学習活動が【しりとりの歌】や【喜びの歌】に設定されている。
教芸	学校段階の円滑な接続について、運指や音高、音色を確認する学習活動が【喜びの歌】や【かっこう】に設定されている。
⑬ 情報活用能力の育成	
教出	情報活用能力の育成について、音源や演奏する場面の写真を活用して、楽器の発音の仕組みや音色の特徴を比較する学習活動が【表現の仕方を調べてみようPART-1】に設定されている。
教芸	情報活用能力の育成について、創作ツールを活用して箏の旋律をつくる学習活動が【My MeLody】に設定されている。

⑭ 生徒の学習上の困難さに応じた工夫	
教出	生徒の学習上の困難さへの対応について、写真を用いたギターとキーボードのコード表の『ギター&キーボードコード表』に掲載されている。
教芸	生徒の学習上の困難さへの対応について、イラストを用いた『ギター／キーボード表』に掲載されている。
⑮ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	
教出	生徒の理解が深まる構成について、1人1台端末を活用できる学習活動が【見る】【聴く】【知る】に示され、動画などにつながる二次元コードが掲載されている。
教芸	生徒の理解が深まる構成について、1人1台端末を活用できる学習活動が【動画】【音源】【創作ツール】【文章、ワークシート】に示され、動画などにつながる二次元コードが掲載されている。
⑯ 表現及び鑑賞の基礎的な能力を養うために、〔共通事項〕をよりどころとして、主体的・協働的な学習の展開が図られるような工夫が配慮がなされているか。	
教出	主体的・協働的な学習について、音楽を形づくっている要素を取り上げ、話し合いを通して構成を考えて合奏する学習活動が【どこかの街で不思議な旋律PART-1】に設定され、楽器の特徴を踏まえて、共通点や相違点を考える学習活動が【表現の仕方を調べてみようPART-1】に掲載されている。
教芸	主体的・協働的な学習について、音楽を形づくっている要素を取り上げ、話し合いを通して表現を考えて演奏する学習活動が【アーティキュレーションを工夫しよう】に設定され、パートの旋律やリズムの特徴を確かめながら役割を考える学習活動が【パートの役割を考えよう】に設定されている。
⑰ 「A表現」や「B鑑賞」の教材は、学習を積み重ねていくことができるよう、系統的、発展的に配列されているか。	
教出	系統的・発展的な配列について、楽器ごとに前半には基礎的な技能の習得が『たこたこあがれ』に掲載され、後半には応用的な曲や既習の楽器を組み合わせた楽曲が『子守歌』に掲載されている。
教芸	系統的・発展的な配列について、楽器ごとに前半には基礎的な技能の習得が『カントリー ロード』に掲載され、後半には応用的な曲や既習の楽器を組み合わせた楽曲が『大きな古時計』に掲載されている。
⑱ 音楽文化の理解について、多様な音楽を、身の回りの生活や社会と関連させながら学習するための工夫や配慮がなされているか。	
教出	音楽文化の理解について、文化や生活様式との関わりについて考える学習活動が【弾く楽器の仲間たち】に設定され、世界の楽器やその特徴を生かした音楽文化に関する写真が『LET'S PLAY MUSIC!』に掲載されている。
教芸	音楽文化の理解について、和楽器や郷土の芸能を考える学習活動が【私たちが受け継ぐ郷土の祭りや芸能】に設定され、和楽器において、楽器の奏法、姿勢や礼儀などに関する内容が『楽しもう！和楽器の音楽』に掲載されている。

4 分量・装丁・表記等

⑲ 各内容の分量とその配分は適切であるか。	
教出	本編は、リコーダー、篠笛、尺八、ギター、箏、三味線、太鼓の順に各楽器が配置され、後半には各楽器の重奏曲、箏の縦譜、ギターのTAB譜、コード表、創作課題が掲載されている。
教芸	本編は、リコーダー、ギター、箏、三味線、太鼓、篠笛、尺八、打楽器の順に各楽器が配置され、後半には各楽器の重奏曲、箏の縦譜、三味線の文化譜、楽器の図鑑、創作課題が掲載されている。
⑳ 体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。	
教出	判型はA B変型判が採用されている。
教芸	判型はA B変型判が採用されている。
㉑ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が読みやすく理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	
教出	『見やすさ・読みやすさに配慮したユニバーサルデザインフォントを使用しています。』『色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮しています。』と表記されている。
教芸	『全ての生徒の色覚特性に適應することを目指してデザインしています。』『特別支援教育の視点から、学習上重要な情報を確実に読み取れるようにしています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。

【参考】

①	題材に関連した神奈川県に関する主な文章や写真・グラフ等の掲載	
	教出	掲載なし
	教芸	掲載なし

②	一冊ごとの重量 (g)	
	冊数	重量 (g)
	教出	1 220
	教芸	1 218